

統合家政学における *Huan planning* 家政学原論への提案 (第一報)

ヒューマン・エコロジー研究所 の松田良美子

目的 家政学の基本概念及び研究対象は 家族及び家庭生活の発展研究から出発する。科学の急速な発展は 生活の質的变化を急速に多様化してきた。それに伴って 家政学に關する研究も年毎に多くの成果が発表されてきた。その成果が今日の社会の要請に答える結果については未だ懐かある。今日の経済優先の社会構造の中で、人間以外の日常化されている中で、家政学が人間の生存に不可欠な学として人々の気付き始め、且つ活用するところの出来る。家政学の実践への試みが必要とされていることに 私は危機感をもつ。その次第の具体的プログラムを構立するところから、新しい家政学への脱皮へと考へる。

方法 統合家政学とは何の 原論における *Huan planning* の位置づけ

まとめ 従来の家政学研究の様式は ①衣 ②食 ③住 ④保育 ⑤家庭経営 ⑥原論 ⑦家政教育から ⑧と家族学を新設し ⑨家族の知的情報生産と存在確保 ⑩出生 ⑪保育 ⑫性教育 ⑬結婚 ⑭婦人問題 ⑮老人問題を入れる。⑯家庭管理には、⑰金銭運用管理 ⑱地域社会問題として ⑲の家政学原論には *Huan planning* の位置づけ、個人及び家族の *Life planning* をはじめ 家族に關する情報状況及び自己への援助計画など統合的立場位置づけをもつ。とくに重視すべきは、人間学、生存哲学を学ばせることにより、生きる意味、人間としての存在、生命に対する畏敬の念への育成など、本来人間の必要が内的情緒と知的情報のパワンスある人間愛に基づくものを 家庭生活によって育成されることを強調したい。これもすると 経済的経済優先社会の風潮に反って 外的要因に動かされたいの内的人格育成の場として 家庭生活を 価値発見と学ばせる家政学の位置づけを強化したい。